

MAESTRO TURNOVSKÝ

MEMORIAL CONCERT

空間あいサロンコンサートXI ～あなたに愛と調和と芸術を～

群馬交響楽団 永久名誉指揮者

マルティン・トゥルノフスキーを偲んで

フェードー・ルディン

& ユリア・トゥルノフスキー

ヴァイオリンデュオリサイタル

Fedor Rudin & Julia Turnovsky Duo Violin Recital

ユリア・トゥルノフスキー
ヴァイオリン&ヴィオラ
JULIA TURNOVSKY,
VIOLIN & VIOLA

フェードー・ルディン
(元ウィーン・フィルコンサートマスター
ウィーン国立音楽大学教授)
ヴァイオリン
FEDOR RUDIN,
VIOLIN

W.A. モーツァルト／ヴァイオリンとヴィオラのためのデュオ 第1番ト長調 KV.423

W.A. Mozart (1756-1791): Duo for Violin and Viola No.1 in G Major, KV.423

E. イザイ／2つのヴァイオリンのためのソナタ イ短調

Eugène Ysaÿe (1858-1931): Sonata for two violins in A minor

C.P. シュタミッツ／2つのヴァイオリンとバスーンのためのトリオ 第2番ト長調 作品14

C.P. Stamitz (1745-1801): Trio No. 2 in G Major for 2 Violins and Bassoon, op. 14

C. サン＝サーンス／死の舞踏作品40 編曲：ブテリス／デュヴァルによるデュオ版

C. Saint-Saëns (1835-1921): Danse Macabre, op.40 - arr. Boutellis/Duval for 2 violins



[賛助出演]

シュテファン・トゥルノフスキー
(ウィーン・フィル、ウィーン国立音楽大学教授)
ファゴット

[Supporting appearance]

STEPAN TURNOVSKY, BASSOON

2024年2月15日(木)

15:00開演(14:30開場)

高崎芸術劇場 音楽ホール

Thu 15th February, 2024 15:00 Start (14:30 Open)
at Takasaki City Theatre Concert Hall

全席指定 S席 6,000円 A席 5,000円
(絵本群馬レガシー及び演奏会記録掲載プログラム付き)

この追悼演奏会の収入の一部は、遺族を通じて
公益財団法人群馬交響楽団に寄付します。

チケット取り扱い

■ Web
高崎芸術劇場メンバーズ▶
(要・無料登録)



■ 電話
高崎芸術劇場チケットセンター
027-321-3900 (10:00～18:00)

■ 株式会社 空間あい
090-1815-4608 info@kuukanai.com

ゆうちょ銀行
振替口座 00280-2-141735 カ)クウカンアイ
※上記にご送金いただければチケットを送付します。

■ 窓口
・高崎芸術劇場チケットカウンター
・群馬音楽センター ・高崎市文化会館
・高崎シティギャラリー
ほか 高崎市施設プレイガイド

■ ピアノプラザ群馬 高崎本店
027-363-1262 (10:00～19:00 水休)
toiawase@pianoplaza.com



WEBサイトからも
購入できます▶

マルティン・トゥルノフスキーを偲ぶ。

2022年7月、コロナ禍の中、ロンドンへ、帰路ウィーンに立ち寄った。かねてから気がかりだった、群馬交響楽団永久名誉指揮者マルティン・トゥルノフスキー氏の墓前で手を合わせた。

マエストロは、ユダヤ人の弁護士を父に、ドイツ人翻訳家を母に、1928年ブラハで生まれ、恵まれた家庭で育った。ただ父がユダヤ人という理由で、青年キャンプで数カ月を過ごすことになった。冷戦の分断の中で、政治的に翻弄され二つの祖国、東と西、亡命したマルティンの祖国への想いがどんなに複雑だったかを、その苦渋は私には、計り知れない。

ブラハから北へ60キロほど離れたテレジン収容所では、多くの音楽家が作品を残し、やがてアウシュビッツに移送され命をたたれた。ナチスのプロパガンダによる非人道的な策略の中で、音楽の探求に没頭して「音楽」が人々に、そして自分自身に喜びを与えることを全身で感じていたのか、まさに奇跡だ。

マルティンは、チェコの名指揮者コシュラーと青年キャンプで知り合い、その後二人は、ブラハアカデミーで学んだ、二人の師匠であるアンチェルや群響をブラハの春国際音楽祭に招聘した音楽祭委員長、作曲家のペトル・エーベンは、収容所で過ごしている。その後チェコがナチス・ドイツの支配から解放され、共産党政権が樹立、ソ連の衛星国化に反発して、クーベリックは亡命し、また1968年にチェコ事件が起こり、アンチェルは、演奏旅行中のアメリカで亡命し、そしてマルティンは、シュターツカペレ・ドレスデンの音楽監督を辞して、家族を伴って、オーストリアに亡命した。1989年に母国チェコが民主化されて、亡命以前の契約を果たして、ブラハ交響楽団の首席指揮者に就任している。

マエストロは、94年群響のブラハ春国際音楽祭出演が縁となり、1995年6月

第329回定期演奏会に初登場して、満席の群馬音楽センターで、スメタナのわが祖国からそしてドヴォルジャークの新世界を指揮し、拍手喝さいを浴びた。終演後のカーテンコールのなか、4歳の少女が花束をさしだした。その少女が今回の演奏会で出演する孫のユリア・トゥルノフスキーだ。その後、ユリアは、2005年に、サン＝サーンスのヴァイオリン協奏曲第3番で群響と共演している。その姿を待ちに待っていた群馬県在住もう一人の祖父の瀧名敏白氏が、本年10月9日に逝ってしまった。

マエストロは、2013年10月に群馬交響楽団定期でスメタナ「わが祖国」全曲を指揮する予定だったが、体調不良により来日できず、家族は、2019年11月、群馬に訪れ、群馬交響楽団へのマルティンの近況報告を兼ねて、完成したばかりの高崎芸術劇場で、「父がこの劇場で群馬交響楽団を指揮できたら、どんなに喜んだらうか」と息子のシュテファンは語り、マルティンのわが祖国全曲の想いを聞くことになった。ヨーロッパでのコロナ禍で中、妻のズデンカが2021年2月27日、そしてマエストロが5月19日に天国へ召された。群響は、5月22日第568回定期演奏会において訃報を挟み込み、現常任指揮者飯森範親により、マーラーの5番が捧げられた。彼らにとって複雑な想いの中、祖国とは何だったのか。今回の演奏会でユリアは二人の祖父のために、高崎芸術劇場で渾身の想いを込めるだろう。コロナ禍を乗り越えて、夜明けを信じて、合掌。

(株)空間あい 新井 浄

終演後、カフェシアターレストランで偲ぶ会を開催します。
また、群響への寄付も含めて協賛金を募っております。
詳細はホームページ(右記QR)よりご確認お願いいたします。



PROFILE

フェードー・ルディン (ヴァイオリン)

Fedor Rudin, Violin

2018年、バガニーニ国際ヴァイオリンコンクール第2位を受賞。2019年、イヴリー・ギトリス賞(パリ)に輝く。著名なアバンギャルド作曲家エディソン・デニソフの孫としてモスクワで生まれ、パリで育つ。ケルン音楽大学でザハール・ブロンに、ザルツブルク・モーツァルテウム音楽大学でピエール・アモイヤルに、グラーツ音楽大学大学院でボリス・クシュニールに師事。2019年～2021年、ウィーン国立劇場&ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団のコンサートマスターを務め、リッカルド・ムーティ、ズービン・メータ、クリスティアン・ティーレマン、ジョン・ウィリアムズらのタクトでオーケストラ活動を行った。ソリストとしては、これまでに、ベルリン放送交響楽団、南西ドイツ放送交響楽団、ノルウェー放送交響楽団、ブラハ室内管弦楽団などと共演。室内楽では、ピアニストのボリス・クシュニールやイゴール・レヴィット、チェロ奏者のイヴァン・カリズナ、ユリア・ハーゲン、またバヴェル・ハース四重奏団やシグナム・サクソフォン四重奏団など著名なパートナーとザルツブルク音楽祭、シュレスヴィヒ・ホルシュタイン音楽祭など数多くの音楽祭に出演している。また、ヴァイオリニストとしての活動に並行し、ウィーン国立音楽大学で指揮を学び、これまでに、ウィーン放送交響楽団、ジョージア国立室内管弦楽団、イェナフィルハーモニー管弦楽団などのオーケストラを指揮している。2023年よりウィーン国立音楽大学にてオーケストラ教育の教授として後進の指導にあたっている。
使用楽器は、ドイツ演奏家財団から貸与されたロレンツォ・ストリオーニ(クレモナ、1779年)

ユリア・トゥルノフスキー (ヴァイオリン&ヴィオラ)

Julia Turnovsky, Violin & Viola

ウィーンで音楽家の家系に生まれ、ウィーン・コンセルヴァトリウム音楽大学、グラーツ音楽大学でボリス・クシュニールに師事。ダヴィッド・オイストラフ国際コンクール、カール・フレッシュ国際コンクール、ヨハネス・ブラームス国際コンクールなどでの受賞歴を持つユリア・トゥルノフスキーは、13歳で南西ドイツフィルハーモニーと共演し、これまでにゲッティンゲン交響楽団、カメラータ・ザルツブルク、ブラハ室内管弦楽団、ロストック北ドイツフィルハーモニー管弦楽団、スロバキア・シンフォニエッタ、ソリスツ・ヨーロピアン・ルクセンブルク、日本センチュリー交響楽団、群馬交響楽団、など数多くのオーケストラと共演。これまでにブラハの春音楽祭、グシュタード・メニューイン音楽祭、ジヴェルニー室内音楽祭、ハイドン音楽祭、メクレンブルク・フォアポンメルン音楽祭など数々の音楽祭に招かれ、ソリスト並びに室内楽の活動も意欲的に行なっている。ジュリアン・ラクリン、ダニエル・ホープ、エッソーレ・カウザ、ジャック・アモン、ユリア・ハーゲン、チェン・イバイ、アンドレアス・オッテンザマー、マティアス・ショルンなど著名な演奏家達と共演している。使用楽器は、ジョヴァンニ・バッティスタ・グアダニーニヴィオラ(オーストリア銀行より貸与)

シュテファン・トゥルノフスキー (ファゴット) *Stepan Turnovsky, Bassoon*

1959年、ブラハで音楽一家のもとに生まれる。1968年、ソ連によるチェコスロヴァキアへの軍事侵攻の直後、両親と共にウィーンへ移住。ウィーン国立音楽大学でカール・エルベルガーに師事。在学中の1978年、ウィーン国立歌劇場管弦楽団、1988年にウィーン・フィルハーモニー管弦楽団に入団。1985年より首席ファゴット奏者として、ヘルベルト・フォン・カラヤン、レオナード・バーンスタイン、カール・ベーム、カルロス・クライバー、ゲオルグ・ショルティーなど多くの指揮者の元で活躍する。室内楽の演奏活動も積極的に行い、ウィーン・八重奏団、ウィーン・ヴィルトゥオーゼンとは、ザルツブルク音楽祭、シュベールティアーデ音楽祭など著名な音楽祭に出演、数々のCD録音も残している。また、ニコラウス・アーノンクールが率いるコンツェントゥス・ムジクスに招かれバロックファゴット奏者としてコンサートツアーに参加する。ソリストとしては、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団の定期演奏会、ヨーロッパ演奏旅行におきクリスティアン・ティーレマンと共演する他、ウィーン室内管弦楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、ロンドン・フィルハーモニー管弦楽団などと共演。2001年からは、ウィーン国立音楽大学の教授を務めている。